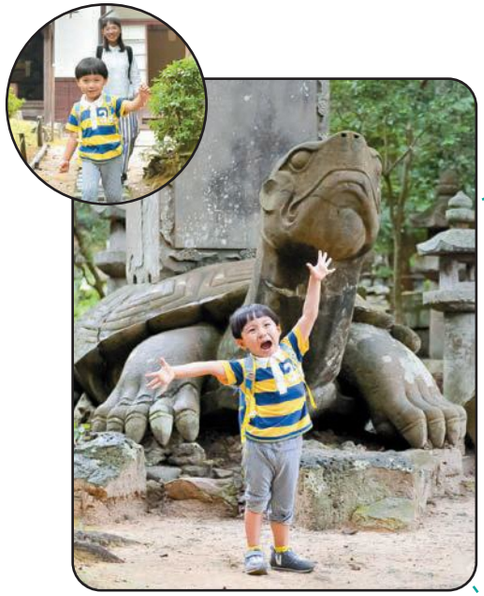


案内モニターで楽しく学ぶ

楽しい仕掛けは車内の案内モニターにも。次の停留所の観光案内を昔懐かしい昭和初期の写真で説明してくれます。例えば「黒田町」。バスから見える景色はショッピングセンターやマンションが立ち並ぶにぎやかなまち並みですが、土壌が豊かな湿地帯だったこの場所は、江戸時代からセリの栽培が盛んで水田が広がっていた地域。真冬の水田で作業する様子が“ 松江の冬の風物詩 ”だったそうです。当時の風景がよくわかる写真と説明がうれしいです。

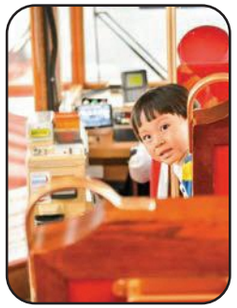
松平家の菩提寺「月照寺」

バスは松江藩主松平家の菩提寺「月照寺」に着きました。ここで途中下車。実はコウちゃんが会いたかったものがこちらに。市内とは思えないほど緑の深い境内を進んでいくと、ひときわ大きくて立派なお墓（宗衍（むねのぶ）公の廟所（びょうじょ）、立派すぎてお墓には見えない）。その横にお目当てのカメがいらっしゃいました。コウちゃんをひと飲みする勢いの大亀です。その昔、よなよな城下町で暴れるので背中に藩主の功績を刻んだ石碑を背負わせているとの事（小泉八雲伝）。首に刀傷があるのがなんとも生々しいです。歴代藩主にごあいさつもし、再びレイクラインへ。

夕日スポット「嫁ヶ島夕日公園」

宍道湖が見えてきました。今も昔も変わらず松江市民を癒してくれています。夕日スポット「嫁ヶ島夕日公園」に乗り入れできるのはレイクラインバスだけの特権です。宍道湖に浮かぶ嫁ヶ島、そこに沈む夕日、赤く色づく湖面。松平不昧公も小泉八雲もコウちゃんも、同じ景色を見ています。そして「いいねぇ～」と同じ言葉を言っていたのでしょうね。

松江市営バスでは、レイクラインバスを含む市営バス連続 2 日間乗り放題の乗車券と、由志園など松江の名所の施設利用料金をセットにしたお得なバスパックもあります。バス好き親子ののんびり旅、いかがですか？



松江に生まれて3年

このまちの楽しさ、美しさ、あったかさを幼児の視点(幼児を育てるお母さんの視点)からご紹介します！

コウちゃんが行く！

～レイクラインバスで学ぶ松江の歴史～

続いては松江の観光名所を巡りながら市内を一周している『ぐるっと松江レイクライン』。観光客に好評なバスですが、松江市民でバス好きのコウちゃんも大好きです！レイクライン旅の魅力をじっくりお伝えします。では松江城（大手前）から出発！

外の景色をパノラマサイズで

なんといってもワクワクするのは乗り心地。木でできたレトロな車体と内装は遊園地のアトラクションのよう。窓も大きくて外の景色がパノラマサイズで楽しめます。乗ったらすぐに車内にある『ガイドマップ』をいただきましょう。かわいいイラストが“ インスタ映え ”のうえ、説明もしっかり。読んで楽しい旅ガイドでお持ち帰り必須です。

コウちゃんはというと…運転手さんの後ろの席に陣取って“ かぶりつき ”です。大きなハンドルさばきも距離感が近くてよく見えるのです。

運転手さんの赤いユニフォームもカワイイ！
(←ここがアトラクション感を増しています)

松江市交通局　［お問い合わせ先］☎ 0852-60-1111